

雨う後ご登と楼ろう

秋あき絶ぜつ海かい

一いつ天てんの過か雨う新しん秋しゅうを洗あう

友ともを携たずえて同おなじく登のぼる江上こうじやうの楼ろう

写のぞかんと欲ほつす仲宣ちゆうせん千古せんこの恨うらみ

断烟だんえん疎樹そじゆ愁うれいに堪たえず

【作者】积絶海(不詳)

【語釈】\*過雨(かう)：通り雨。 \*新秋：秋の初め。 \*仲宣(ちゆうせん)：王粲(おうさん)、(一七七～二二七年)、字は仲宣、建安7

才人の一人。 \*疎樹：葉が落ちて枝ばかりとなった木々。

【通釈】にわか雨が通り過ぎ、初秋の気配がすがすがしく感じられる。友人と連れ立って川辺の高楼に登る。その昔、仲宣が長年の恨みを洗い流して忘れたいと楼に登ったそうだが、今見ると、ときれときれのもやや落葉した木々が見えるだけの風景、心が晴れるどころか、ますます心が沈み、耐えることができない。

【備考】その昔、中国の仲宣という人も王の怒りをうけ今の自分と同じ思いをしていたという。しかし、ときれときれのもやの間から、葉の落ちてしまった木々しか見渡すことのできないこの侘しい風景を見ていると心が晴れるどころか、ますます心が沈み、耐えることができなかった。 积 絶海さんは殿様に叱られ、気分を晴らそうとして友人を連れて、高台に上ったのですが、侘しい風景を見て、憂さが晴れるどころか暗い気持ちになってしまったという気持ちを詩にしたのでした。